

## I 研究方針

### 1 目標

- (1) 本校教育目標及び重点目標を達成するために必要な学力を、児童一人一人に身に付けさせる指導法の研究を行うとともに、教育専門職としての資質の向上に努める。
- (2) 本校児童の実態や、学年の児童の実態に応じた、研究内容や指導・支援のあり方を考える。
- (3) 共同研究という主旨を踏まえ、組織的な研究体制を確立し、共通理解のもとに、授業の質的改善を図るための研修を行う。

### 2 方針

- (1) 職員相互の人間関係を深め、親睦と融和を図りながら、積極的・意欲的に教養を高める。
- (2) 共通理解のもとに、計画的・組織的に研修を推進する。
- (3) 研究主題に基づいて、各研究部会・ブロック部会等で理論研究、授業研究、研究調査を行い、実践研究に努める。
- (4) 先進校の視察や他校での研究会に参加し、視野の広い研修をする。

### 3 現職教育の努力点

- (1) 本校の重点目標や児童の実態を考慮した研究主題を設定し、組織的に共同研究をする。
- (2) 常に共通理解を図りながら研究を進めるとともに、授業の質的改善を図る。
- (3) 専門職としての研修の機会を設けるように努める。

## II 研究計画

### 1 研究主題

自ら学び、共に高め合う  
～自分の考えを持ち、友達と伝え合う子どもの育成～

### 2 研究主題設定の理由

#### (1) 教育の今日的課題に応じて

新学習指導要領では、「生きる力」について大きく取り上げられている。この生きる力という言葉が生まれた背景には、「我が国の子どもたちには『思考力』『判断力』『表現力』等の課題が見られる」と表記されている。これらの力を育成するためには、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語環境を整え、言語活動の充実を図ることに配慮することが求められている。確かな学力とは、基礎的・基本的な知識・技能に加え、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力を含めたものである。

## (2)本校の教育目標の具現をめざして

本校の教育目標

「豊かな心とたくましい体を持ち、自ら考え、自ら学ぶ子どもを育てる」

・思いやりのある子ども ・考える子ども ・元気な子ども

- 「思いやりのある子ども」では、学びの中で、自分の立場から他者を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性を培うことをねらいとしている。
- 「考える子ども」では、子ども一人一人が自分のよさを発揮し、事柄に興味や関心をもって進んで関わり、見たり、感じたり、考えたり、表現したり、活動したりして、主体的に学習に取り組むことができる子どもを育てることをねらいとしている。
- 「元気な子ども」では、自分のめあてに向かってがんばる心を持ち、友だちと互いに励まし合い、自らの心身を鍛えることをねらいとしている。

教育目標を受けた本年度の重点目標「どんどん発表しよう 自分の考え」の達成のために、各教科での言語活動を充実させ、主体的な話し合いを通して、互いに自分の考えを表現し伝え合うことができる児童を育てたいと考える。そこで本校では算数を柱として自分の考えを持ち友達と伝え合う子どもの育成をめざした研究を進めていきたい。

## (3)児童の実態から

本校の児童は、明るく、協力的な態度で生活しており、与えられた課題に対しては、素直な気持ちで取り組もうとする態度が見られる。しかし、1学年1学級で、教師の目が届きやすく友達とも仲良く活動できる反面、進んで自分の考えを発表したり意見を交流したりすることへの必然性が少ない。

また、全国学力・学習状況調査において、本校では、活用力を問う算数B問題の正答率が34.4%（全国45.0%）と全国平均を下回っている。算数の用語・記号を用いて事象の関係を理解したり適切に表現したりする力や、場面の状況や問題の条件に基づいて、方法・理由を言葉や数等を用いて過不足なく記述する力が弱い。自分の考えを図や式、言葉などで説明したり表現したりする、より分かりやすい表現の仕方を工夫するなど言語に関する能力を高めていくことが求められる。

## 3 研究主題に対する考え方

### ○「自ら学び」とは

児童が目的意識・追究意欲を持って、学習に取り組むことであり、新たな性質や考えを見出そうとしたり、具体的な問題を解決しようとするものであると考えた。

### ○「共に高め合う」とは

みんなで活動し合う中で、自他のよさを認め合い、信頼し合い、支え合いながら高め合っていくことと考えた。学習の過程において、課題解決における問いを友達と共有したり、話し合いを通して解決方法を伝え合ったり姿をとらえる。

#### 4 めざす児童像

	低学年	中学年	高学年
自分の考えを持つ子ども	課題に対して自分なりの考えを持つことができる。	課題を選択し取り組み考えを持つことができる。	自ら課題を見つけ考えを持つことができる。
友達と伝え合うことができる子ども	自分の考えを分かりやすく説明することができる。	友達の考えと比べて話し合うことができる。	話し合いの中で疑問や付け足しなどを積極的に行い、自分の考えを深めることができる。

#### 5 研究仮説

算数科の学習において、以下の手立てを講じて授業を実践していけば、自分の考えを持ち、友達に伝え合う力を育てることができるであろう。

- |     |   |                         |
|-----|---|-------------------------|
| 手立て | 1 | 主体的に学ぶことができるような算数的活動の充実 |
| 手立て | 2 | 自分の考えを表現し、学び合う言語活動の充実   |
| 手立て | 3 | 「学び合い」の場を位置づけた単元構成の工夫   |

#### 6 研究の内容

【手立て1】 主体的に学ぶことができるような算数的活動の充実

- 他の教科や領域と関連づけた算数的活動
- 子どもの生活に根付いた算数的活動

【手立て2】 自分の考えを表現し、学び合う言語活動の充実

- 言葉・数・式・表・グラフなど様々な数学的表現を効果的に用いるための学び方の定着
- 自分の考えた過程が残るノート指導のあり方

【手立て3】 「学び合い」の場を位置づけた単元構成の工夫

- 学び合いのとらえ方の共通理解
- 「学び合い」を単元のどこに位置づけるかを意識した単元構成のあり方

#### 7 研究の見通し

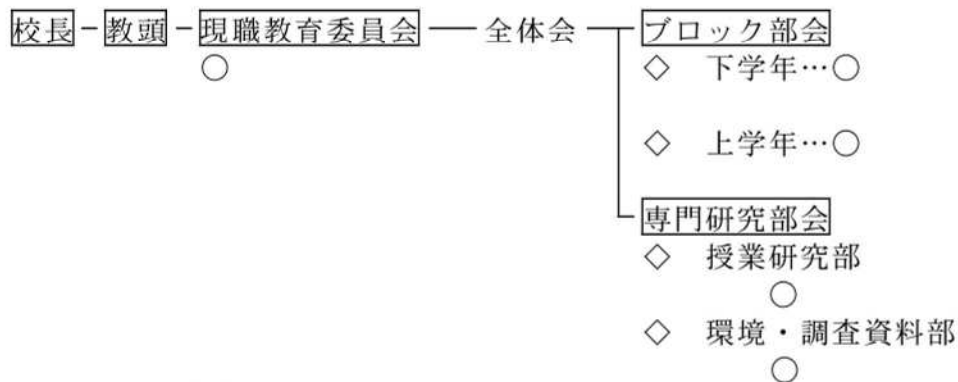
- (1) 研究教科を「算数」とする。
- (2) 研究仮説の手立ての中から選んで授業テーマを決め、研究授業を行う。

## 8 研究の方法

- (1) 各学年の実践研究と研究部による理論研究を平行・関連させて、組織的に研究を進める。
- (2) 全学年で授業を行い研究協議を行う。事前研究を上・下ブロックで行っておく。
- (3) 積極的に先進校の視察等に参加し、伝達講習を開くことで、研究の質を高める。

## 9 研究組織

### (1) 組織



### (2) 各部の活動内容

- ① 授業研究部
  - ・ 授業案の形式の検討
  - ・ 授業研究会，事前・事後研究会の進め方についての計画立案
  - ・ 授業記録
- ② 環境・調査資料部
  - ・ アンケートの作成
  - ・ 児童の実態調査
  - ・ アンケートのまとめと実態調査分析

## 10 研究推進年間計画

	ブロック・全体	授業研究部	環境・調査資料部
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画作成</li> <li>教材研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業の計画作成</li> <li>系統的な指導のめやすの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境整備検討・計画</li> <li>児童の実態調査①</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロック研究会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導案検討</li> <li>教材研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境整備</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロック研究会</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>環境整備</li> <li>授業研究の記録</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロック研究会</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態の分析</li> <li>授業研究の記録</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究</li> </ul>		
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロック研究会</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>環境整備</li> <li>授業研究の記録</li> </ul>
10月			<ul style="list-style-type: none"> <li>環境整備</li> <li>授業研究の記録</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロック研究会</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>環境整備</li> <li>授業研究の記録</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究のまとめ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態調査②</li> <li>研究のまとめ</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究のまとめ</li> <li>集録作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究のまとめ</li> <li>集録作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究のまとめ</li> <li>集録作成</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>市教研作品展</li> <li>反省と次年度の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反省と次年度の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反省と次年度の課題</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度の計画作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度の計画作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度の計画作成</li> </ul>